

[投稿]

アジア地域に土木学会の連合組織が発足

日下部 治 Osamu KUSAKABE 正会員 東京工業大学教授 工学部土木工学科
アジア土木技術国際会議担当委員会 委員長

アジア地域の土木学会の連合組織が1999年9月27日正式に発足した。その名称をAsian Civil Engineering Coordinating Council (略称 ACECC) とし、次の5か国の土木学協会が発足当初会員である。American Society of Civil Engineers (ASCE, アメリカ土木学会), Chinese Institute of Civil and Hydraulic Engineering (CICHE, 中国土木水利工程学会, 台湾), Korean Society of Civil Engineers (KSCE, 大韓土木学会), Philippine Institute of Civil Engineers (PICE, フィリピン土木学会), JSCE (日本土木学会)。ACECCの意思決定組織である理事会の会長には土木学会前会長岡田宏会員, 事務総長には筆者がそれぞれ就任し, 事務局を日本土木学会本部内部に置くこととなった。

ACECCの主たる役割はアジア土木技術国際会議 (Civil Engineering Conference in Asian Region, 略称 CECAR) を継続的に開催し, アジア地域が抱える土木技術に関する諸問題を討議し多国間連携のもとで解決策を見出すことにある。第1回のCECARは1998年2月, ASCE, PICE, JSCEの3学会による共催でマニラで開催され, 第2回CECARは2001年4月東京で開催が計画されて, 現在組織委員会 (委員長: 住吉幸彦, 幹事長: 寺師昌明) のもとで鋭意準備がなされている。

このアジアにおける連合組織の必要性は1996年松尾稔第84代土木学会長当時の国際委員会 (委員長: 小野

和日兎 会員, 幹事長: 筆者) における国際戦略の議論に始まる。その内容は, 委員会がまとめた中間報告およびJSCE 2000, そして会誌, 土木界の国際戦略シリーズにまとめられている。引き続き国際委員会 (委員長: 石井弓夫 会員, 幹事長: 川島一彦 会員) では, 連合組織のコンセプトをASCE, PICEに呈示し具体的議論に入った。それが1998年10月神戸である。学会では, 同年11月, 連合組織結成に向けての作業と2001年第2回CECAR運営のために, アジア土木技術国際会議担当委員会を技術推進部門に設置した。ここで産・官・学の国際派の方々を集まっていたいただき戦略を磨いてきた。本年3月東京でのTask Force会議, 5月マニラでのSteering Committee会議をへてACECC結成への基本的合意に達し, ASCE, PICE, JSCE 3学会の呼びかけの形をとって, わが学会が協力協定を結んでいる海外学協会を中心に14の学協会にACECC設立へ参加を呼びかけ, KSCE, CICHEが発足当時からの参加を表明したわけである。他の学会からも積極的の反応を得ており, 近い将来10か国30万人程度の組織に成長するものと期待される。

今回日本の土木学会のリーダーシップで土木学会の多国間連携を目指した国際的組織が比較的短期間に構築されたことの意義は大きい。さらなる会員の方々のご理解とご支援をお願いしたい。

